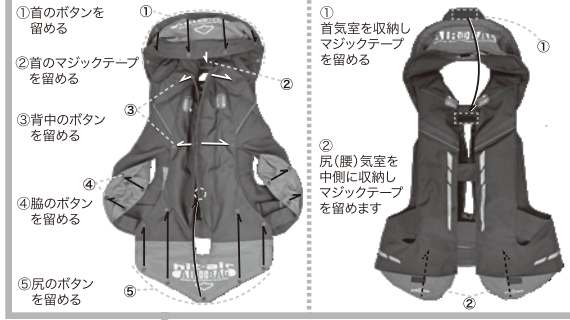


10.各気室を収納してボタンやマジックテープを留めます。(写真10)



11.未使用の適合カートリッジボンベを取付けます(写真11)

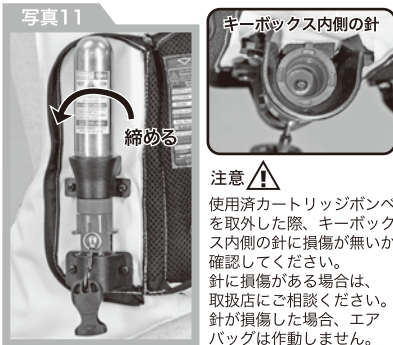
未使用のカートリッジボンベを、キーボックスの取付けネジ部分に根元までねじ込んで下さい。異常が感じられる場合は取扱店にご相談下さい。



注意! カートリッジボンベのねじ込みが緩いと、エアバッグ作動の際に膨らみが弱くなるなどの誤作動の原因になります

12.キーボックスカバーを閉じる(写真12)

ワンタッチコネクターメス部をキーボックスカバー穴から外に出し、キーボックスのカバーを閉じて下さい。



注意! 使用済カートリッジボンベを外した際、キーボックス内側の針に損傷が無いか確認してください。針に損傷がある場合は、取扱店にご相談ください。針が損傷した場合、エアバッグは作動しません。



完了

はじめに ヒットエアに装備されたアクセサリ

再生作業に必要な工具(付属品)
セッティングホルト、六角レンチ(5mm)

CO² カートリッジボンベ (P14参照)
キーボックスが作動するとボンベからCO²ガスがエアバッグ(各気室)へと送り込まれ膨らみます。

キーボックス (P12参照)
エアバッグの基盤部(作動装置)

キーボール (P13参照)
キーボールが抜けるとエアバッグが作動します。キーリングはキーボールをキーボックスに固定するパーツです。

ワンタッチリリース(コネクター) (P15参照)
乗車の際に取付けた伸縮ワイヤーのコネクター・オス部とウェア側のキーボックスのコネクター・メス部を接合して下さい。また降車の際、右図のように外してからお降り下さい。(YKKと共同開発したバックル型)

伸縮ワイヤー (P16参照)
強度に優れたケーブル糸を使用したワイヤーにウレタン樹脂で表面をコーティングしています。

ループセッター (P16参照)
伸縮ワイヤーをバイクに取付ける際に固定するネジ
伸縮ワイヤーをバイクに取付け、長さ調節した後ループセッター下部の溝にワイヤーを固定し、蝶ネジを締めます。

プロテクターチューブ (P16参照)
バイクと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー
伸縮ワイヤーをプロテクターチューブの中に通し、バイクのフレーム、ハンドルなどの巻きつけ箇所の形状に応じ、適度な長さで切断して下さい。

ワンタッチコネクターメス部、ワンタッチコネクターオス部、調整後固く結ぶ、2cm以上残す、キャップ、ワイヤーを溝に挟み込む、蝶ネジで強く締付ける、溝、ワイヤー

再生に必要な工具を準備します(写真1)
2.キーボックスにセッティングホルトを差込みます(写真3)
3.六角レンチでキーボールの穴を中心にするよう調節します(写真4)
4.キーボールのリリース穴に深く押し込みます(写真5)
5.赤ガード(スライダカバー)でキーボールが正しくセットされたかを確認します(写真6)

23

9

4

12

- 注意! 14. キーボールに取付けられたワイヤー及び伸縮ワイヤーに、異常(ほこり、さび、擦れ、切れ等)が確認された場合には、部品交換して下さい。
- 注意! 13. レットエアーは洗濯、クリーニングはできません。
- 注意! 12. バイクに取付ける伸縮ワイヤーが正しく取付けてあるか、各自チェックして下さい。
- 注意! 11. レットエアーに針を通したり、エアバッグ等の縫付けやエアポンプの使用は避け、内部の気室を傷つけ、正常に作動しない場合があります。
- 注意! 10. 保管は、折り畳んだり、荷物の下に置くなどの負担のかかる方法は避け、ハンカチで吊り上げて保管して下さい。また、持ち運びや移動する際も同様です。
- 注意! 9. レットエアーが常に正常な機能を維持するために、使用頻度にもよりますが、年に一回程度の定期点検(メンテナンス)を取扱店、又は当方に依頼(有料)して受けて下さい。

注意! この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び、物的損害のみが発生が想定される内容を示しています。

再生に必要な工具を準備します(写真1)
2.キーボックスにセッティングホルトを差込みます(写真3)
3.六角レンチでキーボールの穴を中心にするよう調節します(写真4)
4.キーボールのリリース穴に深く押し込みます(写真5)
5.赤ガード(スライダカバー)でキーボールが正しくセットされたかを確認します(写真6)

注意! カートリッジボンベはシカレット指定のサイズを使用下さい。

再生に必要な工具を準備します(写真1)
2.キーボックスにセッティングホルトを差込みます(写真3)
3.六角レンチでキーボールの穴を中心にするよう調節します(写真4)
4.キーボールのリリース穴に深く押し込みます(写真5)
5.赤ガード(スライダカバー)でキーボールが正しくセットされたかを確認します(写真6)